要約について

このプリントは、小論文を書く技術（の一つ）として、要約について紹介するものである。といっても、「要約が小論と関係あると?」と思う人もいるだろう。この項目を書こうと思った理由を以下に記す。

●小論文入試で、小論文と言いながら小問で要約を出す学校が多数ある。また、独立した要約問題がなくても、課題文の筆者の主張を踏まえて小論文を展開するのが鉄則だから、結局頭の中で要約する力が必要となる。つまり、入試で必要だから。

●入試で小論文がいらない場合でも、普段評論を読んでいくときに、例えば意味段落ごとの内容を頭の中で要約できるようになれば、読む力が格段に上がる。つまり、国語の読解力につながるから。

次に、実際の要約の方法を示す。数字は手順を表す。

①普段読むときより少し速い速度で、本文全体に目を通す。

この時、（だいたいでいいので）全体を三つか四つの意味段落に分けるつもりで読んでいく。そして自分なりに分け方を決めたら、意味段落ごとに小見出し（タイトル）を考える。

②タイトルをヒントにしながら、各意味段落のキー・センテンス（中心文）を見つける。

（各段落必ずしも一文ずつでなければいけない、という訳ではない。大事だと思ったらとりあえず線を引いておき、後で取捨選択すればよい。また、ある文の一部分だけに線を引くのでも全然構わない。）

③各意味段落のキー・センテンスを中心に要約を組み立てていく。

この時、a　分かりやすくするために必要な言葉は進んで補う。
b　スムーズにつなぐための接続詞や副詞を積極的に用いる。
c　キー・センテンスも必要に応じて圧縮・変型・言い換えをして良い。

④できあがったら、分かりやすい文章になっているかどうか確認し、必要なら修正する。

（例題）次の文章を読んで後の問いに答えよ。ただし、設問の都合上、本文の一部を改変している。

①人と犬猫とのつきあいの歴史はかなり古い。
②愛犬家、愛猫家と呼ばれる人も昔からいた。
③しかし、ほんの少し前まで、その関わり方はそれほど濃密なものではなかったのではなかろうか。
④例えば、「飼っていた犬が、鎖を切って、いつの間にかいなくなってしまった」などという言葉も、ごく一般的に聞かれた。
⑤しかし、そうした淡泊な飼い方、接し方は徐々に様変わりした。
⑥今では、自分の友達や家族より強く末永く付き合おうとする人が増えている。
⑦栄養価の高いペットフードを与え、温かい寝床を用意し、時にはおしゃれな衣装を着せる。
⑧病気になれば、飼い主達は愛するペットを救うために、可能な限り手を尽くす。
⑨この変化は、結果としてペットの高齢化をもたらし、例えば、犬の寿命はこの十五年で二年も延び、十歳以上になった。
⑩犬の十歳といえば、人間の六十歳であり、百歳近くまで生きることも珍しくはない。

問一　①～⑩の文を、次の小見出しに従って三つの意味段落に分ける場合、第二段落、第三段落はどの文から始まるか、番号で答えよ。
（第一段落）昔の人と犬猫とのつきあい方　（第二段落）人と犬猫とのつきあい方の変化
（第三段落）変化の結果起こったこと

問二　各意味段落の中心文（キー・センテンス）をそれぞれ一つずつ選び、番号で答えよ。

問三　問一・問二を参考にして、この文章を九十字以内で要約せよ。

問一	第二段落	第三段落	問二	第一段落	第二段落	第三段落	問三